

コンサドーレ札幌 サポーターズ集会 2015



と き 2015年2月11日(祝) 12:00～

と ころ 札幌コンベンションセンター「SORA」
107+108連結会議室

齋藤 (以下司会) : それでは恒例になりましたコンサドーレ札幌サポーターズ集会2015を開催させていただきます。まず我々、複数のスタッフで運営させて頂いておりますのでご紹介させていただきます。会場系のリーダーをしております千葉君です。後ろの方、会場系の松本君、奥さんの明美さん。それと撮影担当の渡辺さん、記録係で高森さん、鎌田さん、熊野さん、受付の松村さん、齋藤さん、進行の中川さん。で、今日の皆様のご発言は全て記録させて頂いておりますし、後ろの中央にテレビカメラが入っておりますが、この内容はオンタイムで関東後援会のサポーターの集会があり、その会場にライブで中継されております。午前中関東後援会の方の総会がありまして、そこで出ました質問も、関東後援会の方がいらっしゃってますので、代読して投げかけて頂くと。関東後援会の会場にいらっしゃる方もご覧になっているという事でご理解を頂きたいと思っております。私進行させていただきます、齋藤でございます。よろしく願い致します。それではさっそく社長の方から。あとは社長にお任せいたします。よろしく願い致します。

野々村社長 (以下野々村) : 皆さんこんにちは。お休みなのにありがとうございます。ほんとまあ、いつもいつもですけれども、クラブの事を考えてくださっている方が今日来てる方々だと思ってますんで。まあその事に関してはいろんな所でありありがとうございますという事を改めてお伝えしたいと思っております。何をしゃべろうかなと思ってんですけどね。僕がいくつかしゃべる中で足りないものは折角なんで聞いて頂いて、質問がなくなったら終わるっていうような感じで今日は進めたいと思っております。いつもいろんな所で、企業さんとか団体なんかで講演をさせてもらうんですけど、その時に伝えるような事をちょっと最初に話をしたいなとは思っています。普段はあんまりサッカーに興味がないとかあんまりコンサドーレの事知らないっていう方々が集まる会で話す事が多いんで分かりやすいとか、ほんとに初歩的な感じで話をしますが、今日はある程度皆さん理解されてる人たちだと思うのでざっくり話はしたいと思んですけど。コンサドーレ、何でも勝てねーんだっていうような事をね、いつもいろんな所で話す時にはそういう話をする事にしてます。普通の人というか、一般の人たちは勝てそうなチームなのに勝てなくて、ある意味だらしないっていう様な、弱えーなっていう感想しか持ってないのが僕は現実だと思ってるんですね。講演なんかでは、実際どうだから勝てないっていう事を言うようにしてるんですが、簡単に言っちゃうとやっぱりクラブが大きくなれない限り勝つ事は難しいんですよ。まれに小さなクラブで強化予算が少なくても1シーズンうまく行くっていう事は、まあサッカースポーツの世界なんでよくある事ではあるですね。じゃコンサドーレは今まで4回上がって4回落ちている。でしたっけ、そうですね。で、4回のうちの殆んどが少ない予算で現場が頑張ったままたまいいシーズンを過ごして上がった。だけど強化予算が少なすぎるので、相手チーム、ライバルとの競争力がなくて落ちてる。これが現実なんです。うまく行ったシーズンは、それこそ僕らがサッカーしてた2000年とか2001年のシーズンとかだと、まあまあなんです。まあまあっていうのはクラブの大きさとして、予算規模でいうと全体で多分20億円位。10年以上前ですけど、今でもJ1の中に引っかけてもいい位の規模ではある。で、当時は強化費を10億円まではいかないですけど9億円前後を使ってチームを作っていた。10数年前なのでJ2のレベルも低かったわけですよ。J2のレベルというか日本サッカー自体の、他のクラブのレベルもそんなに高くなかった。正確ではないかもしれないですけど2000年J2にいたコンサドーレの規模はJレズに続いて多分2番目とか3番目位だったと思います。それが最近どうだったかという、僕がここに来たのが13年シーズン途中みたいな感じですけど、13年シーズンだと、2000年の時に20億円近くあった物が12億5千万円位なんです。それだけクラブがちっちゃくなってしまっている。一方でどんどん成長してるクラブがあるので、コンサドーレは日本で30番目ぐらいのクラブの大きさになってしまっていると。当時、13年のシーズン12億5千万円で強化にいくら使えたかという、3億円なんです。3億円というのは当時のJ2でも12、3番目の費用しか使えてない。僕は一方でプレーヤーとしてピッチの上での事も感覚としては当然わかるので、プレーヤー目線からすればその3億円だろうが10億円だろうがこのグループでとにかく、シーズン良い結果を出すために絶対的に努力はするっていう事はもう当然みんなやっている。だけど、今の立場で行くと、3億円しか用意できていないようなチームに対して、J2で13番目位のスタートポジションのチームに対して絶対に昇格をしなさいとは言えない言っただけいけないと思ってるんですね。で、僕らクラブもコンサドーレを少しでも大きくしていこうと思ってる皆さんはそういう認識でいるので強化費のバジェットをどうやって大きくしていくか、クラブをどうやって大きくしていくかという事をやらないといけない。勝負を捨てているという訳ではなくて、少ない予算でも勝てるっていう可能性はあるんだけど、何とかそのバジェットを大きくしようと。僕来て3年目なりますけど、毎年強化に使えるお金を少なくとも1億円ずつ位増やしていきたい。一昨年3億円、去年4億円、今年は5億円ちよいぐらいの予算を組んでチームを編成してます。もちろん5億円以上の価値のある選手を

どう揃えるかっていうところはまあこれはクラブ側の腕次第ですけど。一方で15億円位使ってるチームがぼこぼこあったりする中で、うちは順番でいうと7番目が8番目くらいなんです。けど15億円とか使っているクラブともある程度うまくやれば競争できるようなものは用意できているんじゃないかなと思っています。じゃあねどうやってそのクラブを大きくしていくかっていう事ですけど、そもそもコンサドーレ今魅力があるのかないのか、絶対的にあるかと思ってます。で、その魅力に気づいてくれている人たちが、皆さんも含めて1万人位の人たちはいてくれている。けど一歩離れてそもそもコンサドーレに興味のない人たち。新聞とかテレビで勝ったか負けたかしか伝えてないのが現状で、その情報を目にした人たちは、ここの中に入ってこない。コンサドーレの魅力はわからない訳ですよ。一歩離れたライトな人たちにどうやってコンサドーレの事を、興味を多少でも持ってもらうようにするか。それはもう露出しかなと思う。時間が経てば多くのロコミである程度広がってはいくし、途中でダメになる事はないとは思ってるんです。けど早く大きくなって早く勝ちたい、勝つ可能性を高くしたいと考えると、どうやって露出をするかっていう事を考えないといけない。一方で伝える費用はあるのかというとなんかないの、ない知恵絞っていろんなアイデアを出しながら、例えば新聞とかテレビとか話題として扱ってもらえるよう、この2、3年取り組んできていると。効果としては悪くはなかった、レ・コン・ビン獲ったりしながら。獲れば東南アジアで初めてのJリーガーっていう事とか。そもそもそれだけで話題にもなる。一方で強い弱いつていう事にしか興味のない人たちにとって、例えば一般の新聞で言うと、スポーツ面では野球がドカーンと載ってサッカーがちょっと載るみたいな感じですよ。その枠をどう取り戻すかっていう事もやってはいくんだけど、それよりも経済面とか社会面でコンサドーレの価値、勝ったか負けたか強い弱いつていう事以外の価値をどう伝えるかっていう事のトライとして、アジア戦略みたいな事をやってきて、サッカー、コンサドーレっていう一つのコンテンツを通して。レ・コン・ビンが活躍しました。レ・コン・ビンの活躍をベトナムでテレビ放送します。その時日本の札幌ドームに看板を出してくれたところが日本にいながら、コンサドーレが日本で札幌で試合をしていながらベトナムの9千万人の人たちにアプローチ出来る。何かと何かを繋げる価値はサッカーに元々あって、それがサッカーだからできる事でもあるという事を、新聞なんかは経済面社会面で書いてくれたりするわけですよ。勝った負けたしか興味がない周りの人たちにとっても「サッカーってなかなか価値があるんだな」と、サッカークラブそもそもの価値を伝えるというような努力も引き続きやっていかなきゃいけない。たまたま新聞見て経済面読んだらコンサドーレの事書いてあったからコンサドーレを少し気にする様になると。そんな循環をチームの成績とは別に作っていかなくちゃいけないんで、その辺はうまくやれたと思いますし、継続してどんどんやっていかなきゃいけないと思ってるんです。サッカークラブの価値、なかなかこれが伝わりづらいところがあって。色んな所の講演でもよくしゃべるんですけど、この地域において今までの一番の価値は、コンサドーレが20年前位にできて、それと同時にワールドカップが日本に来そうだと。地元地域にコンサドーレがあるんだったらサッカー専用のスタジアム、結局は札幌ドームができるわけですけど、コンサドーレがあったからこそ札幌ドームもできたっていう側面は少なからずあると思うんです。じゃあ札幌ドームができて今どうなってるか。コンサドーレにとっては良いのか悪いのかわからないですけど、野球も来て、それからアーティストも沢山来て、地域の人たちにとってはすごく楽しみが増えたという文化レベルがすごく上がったと思うんです。その始まりはやっぱりサッカー。サッカーの価値とかコンサドーレっていうクラブの価値を実にわかりやすくこのエリアで表現していると思ってるんです。そんな事を多くの人にわかってもらうために、コンサドーレはいろんな価値があるんだよって事を伝えていくっていう様な事を僕らはしなくちゃいけない。そうなってくると新しい人、外側にいた人がゲームを観に来て、コンサドーレの事を少し知るとかスポーツ文化を考える事でコアな人たちに変わっていくような、そういう循環を作っていくと大きくはならないだろうと考えてます。多分皆さんも入り口は、結局テレビだったりしたと思うんですよ。何年前位からコンサドーレ応援してくれてるかはそれぞれだと思いますけど。北海道の人はよく熱しやすく冷めやすいと言いますが、僕は全然そんな事思っていないで、すごく地域愛に満ちあふれている。一方で東京とかっていう所と弱冠違って、テレビから発信される情報を全て本物としか伝わってない。テレビに出てる人、乗っかってる人たちはすごい人だっていうような感覚を強く持ち過ぎているようなところがあると思ってるんで、やっぱりコンサドーレがなかなかテレビ露出をされなくなると、あの人たちダメなんじゃないか。単純にこう思っちゃって事ですよ。逆にテレビに出てる人たちはすごい人だと思っるのが首都圏よりも強いと思う。恐らく2000年位のシーズンなんかはすごく露出もあって、それを観てすごそうだなと思って来て、そこで楽しいとか魅力的だなと思った人たちが今こう残ってコアになっていってくれていると思う。その循環をもう一回取り戻さないといけないという事で、テレビ局にもすごくいろんなアプローチはしています。Jリーグ50クラブくらいありますけど、昔からある程度の規模でやっている関東じゃないエリアのチームは殆んど地元のテレビ局が何らかの形でスポンサーになってるんですよ。コンサドーレはどうかっていうと、一個ないわけですよ。去年も一応動いてはみたけど感触が悪く、今年も同じ様に各社にいろんなセールスはしようとは思ってますけど、その辺のやり取りがメ

ディアサイドとうまくできると露出も取り戻す事ができるというか、以前のレベルに近づくんじゃないかなとは思っています。こう話すと大体お金の事なっちゃうんですけど、でもそれがないとダメだっていう事は認識してもらいたい。Jリーグが始まって今上の方にいるクラブの殆んどは元々日本国内におけるでっかい企業が母体というか親会社的に始まったサッカークラブばかりなんです。そういう何兆円とかっていう売上があるような所がスポンサーになってるようなクラブは、その企業からだけでたぶん、大体10億円くらい出てるんですよ。僕らの今の事業規模、まあ売上とか予算は大体去年で14億円くらい。一番でかいのはレッズで50~60億円位。じゃあ何処まで行かなきゃいけないかっていうと30億円位は全然いける数字だとは思ってるんですよ。今14億円しかなくて、何でそんだけなのか。単純に親会社がないからっていうところなんです。だけどそれが無いから終わらかっていうと全然そうは思わなくて、500万も北海道全体でいるような地域でそこに参加してくれる、クラブを作るっていう事が本来のスポーツの楽しみ方であるという事がわかってくれる人が増えれば、でっかいスポンサーがいらないような地域のクラブでもできるんじゃないか、30億円位まではいけるんじゃないかなと思ってます。30億円あると大体半分位は強化に、チームに当てられると思う。そうすると常に上にいる事のできるクラブになるという事です。大体こんな感じでサッカークラブは成り立ってますっていう事を今お話をさせてもらったという事でご理解頂きたい。勝ってほしいなあって僕も思うんですよ。勝ってほしいし勝ちたいなと思うけど、そればかりを選手とか現場に。今年だったら、お前ら5億円で絶対勝てよって言っている。それも一つのサッカーの観る楽しみではありますよね。このチームでどう勝つかっていう事は楽しみの一つではあるんだけど、やっぱり5年後10年後を考えると、5億円じゃなくてみんなでそこを10億円にしようっていうような楽しみを僕らは皆さんと一緒にやっていくのがスポーツ、サッカーを強くするとかっていう事だっていうふうにご理解してもらえたら嬉しいなと思います。次チームの事いきますか。だけど勝ちたいんですよ、僕は。勝てる可能性はあると思ってます。まあこれも中継してるというか外に漏れるっていうのは選手が聞くとかわいそうだなと思っちゃうんですけど、これはもう現実として厳しく言います。13年のチームと今のチームで明らかに可能性が違うと思いませんか？全然違うと僕は思うんですよ。それはサッカー上がりとして戦力的に。簡単な話ですけど、やっぱそこは2億円の差なんです。で、今年のチーム。10億円以上使っている上の7つ6つのチームにどう対抗できるか。レギュラーだと思う選手が70%普通に稼動して、残りの30%は北海道の若い子がしっかり絡んでくるとか、出れなかった選手がいた時にそこに入ってそれなりのパフォーマンスをするっていう事ができれば、結構可能性はあると思ってます。まあやってみないと、こればかりはなんともわかんないですけど。まだキャンプ観ていないんで、僕の眼で見た話じゃないですけど、いろんな人から聞く話だと、ナザリトと都倉。最初の頃ってあんまり二人組で何かしなさいとかっていうトレーニング、誰と組んでもいいみたいな感じなんだけど、バルバリッチはナザリトと都倉は結構二人で組ませるような感じでやっているみたいです。こないだのゲームはナザリト、都倉、伸二が前3人でスリートップみたいにしてやったみたいなんですけど、イメージは良さそうですよね。ちょっとやりそうじゃないって思うんですけど、まあでも相手川崎だった。いろんな考え方あるんですけど、相手も3バックだったんで前の3人がどうやってボールを追うかみたいな所が難しかったり。特にナザリトがまだコミュニケーションの問題なのか、日本のサッカーで守備をどうやってやるかっていう様な所があんまりまだじっくり来てなくて。ボールの追い方みたいな所では、例えばナザリトじゃなくて内村の方が良いとかっていう様なイメージで今そういう段階みたいです。でもボールが入れば強さとか速さとかっていう所ではすごいなっていう所は見せていたようです。サッカーって難しいですけど、90分あるうち2分しかボール持たないわけで、ナザリトも伸二も大体2分間位しかボール持たないわけですよ。じゃ残りの88分間何もできなくて2分の時にすごきやそれでいいのかっていうと。まあある種メッシなんかはそれでいいんですよ。メッシだって1試合で7キロか8キロしか走らないんですよ。本当かどうか分からないですけど、記事で読んだんですけど大体10キロ11キロ12キロ走んなきゃいけないんだけどメッシはその88分は殆んど何もしていないわけですよ。だけど2分間ですごい事ができるからアイツは凄いわけで、うちのクラブでそんな人が居るかっていうと居るわけがないので、ナザリトもボールがない時の88分間をどういう仕事をチームとしてするかができていくとより良くなるという様な事じゃないかなと思います。ボランチは誰がやったっけな。ニウドが結構いいみたいですね、やっぱり。まあまあ守備は頑張れそう、昔から知ってる人だったらビジュより頭良さそうだなっていう感じらしいですよ。で、ビジュよりちょっとうまいっていう。当時10億円くらい使ってあの選手、今回5億円なのにその選手がいる。強化スタッフうまく取ったなと思います。想像以上にいろんな事がまあできるようなイメージをスタッフなんかは持ったみたいですね。心配なのはカード。川崎のゲームでもトレーニングマッチなんでそこまで行かないのが普通だけど本番だったらちょっと危ないっていうようなシーンも何度かあったみたいなんで、その辺のコントロールですね。今上里もいるし裕樹もいるし、ボランチの所はスタートはその辺が争って行くんじゃないかなと思います。後ろが誰だ、竜二がケガしてたりして稲本が真ん中やったりしてる。櫛引も後半3バックの真ん中で出てすごく良かったっていう評価をされているみたいなので、まだ誰

がどうなのかはわからないですね。そこは競争してくれればよくて、一つは荒野が右で左が石井ちゃんがやったのかな。その辺、僕は左のアウトサイドが多分一番競争になるんじゃないかなと思ってます。でもこれは僕の考えですよ、バルバリッチがどう考えているかはわからないですけど。そんだけ人が集まって若い奴何処でどうしてんだらうっていう事になるわけですよ。でね、これはもうある種しょうがない事で、それをどう超えていくかっていう事ができない選手は、この世界なんでもう越えられなかったら終わってくしかないですね。終わってくってうちのチームを終わってくって事です。何とか引つかかってくる、それを超える若いのが出てくるといいなと思います。中原彰吾も後半出て、3回位決定機があつてまた入んかったって言っていました。まあ本番で獲ってくれればいいんですけど、彰吾は左ウイングバックみたいな所で勝負する様な感じでいいんじゃないかなとも思ったり僕はしちゃいますけどね。頑張ってるんで、チャンスは作れると思うんですよ。あのポジションだと点入んなくてもまあ許せるかっていう感じにもなる。本人にとってそういう選択もありかなと思います。例えばブラジル代表の話ですけど、レオナルドだって左のサイドバックやってた時期がありますからね。そこからだんだん前の方の選手を超えていくってような事をやってくれてもいいかなと思います。でも去年一昨年より若い選手がゲームに出て行くって事が難しい環境には絶対的になっているのは事実ですよ。それだけ使えるお金が増えると戦力は充実してくるって考えてほしいなという事です。まだキャンプにも行ってないので何ともわからないんですけど、可能性は充分感じられるチームになるんじゃないかとは思いますが。こないだのメンバーがスタートだとするのなら、やっぱり内村が途中から出るとか、前田が途中から出るとかっていう事になるわけです。その選手達のマネージメント、要は今まではずっとスタートで出る事が多かった選手がふてくされるとか何かこうチームの和を乱すとかっていう事は何となく想像つくと思いますけど、その辺しっかりできるかどうかは監督とかスタッフの腕次第で、うまく廻ったとしたら勝てる可能性は相当上がるって事にはなると思います。あんまり期待ばかりさせるのもしょうがないですけど、今はどっちかと言うと勝ちたいっていう現場側立って話をしましたけど、クラブと言うとそんな簡単に行くはずがないというか。ビッククラブもいる中で15億円対5億円がやってどう勝つか。これはもうなかなか普通は勝てないわけですよ。だけど頑張ってるって事で、コンサドーレの今の立ち位置として、小っちゃなクラブだけどどうやってジャイアントキリングを起すかっていう楽しみ方のクラブだっていう事を伝えたくてジャイアントキリングっていう言葉を使っています。このままでいいのかとは全く思っていない、一昨年で12億5千位、去年は14億3千位、売上をちょっとずつちょっとずつ伸ばして。今年も5億使うって事は15億5千万位を売上げなきゃいけないんですよ。去年よりもまた1億円以上新しい売上を作っていないといけない。チームは勝つために頑張るし僕らはクラブを大きくするためにちょっとずつ、数字で言うと1億円くらいを新しく売ってという事をやっていく。今は何とか20億円位に近い将来、数年後に持っていくっていう努力をしながらチームは他よりも少ない予算でどう結果を出すかっていう事になるわけです。で、上がったらどうなるのっていう事ですけど、例えばJ1に上がったら今年5億なのに来年6億なのかっていうと全然そうではなくて、J1で残留するためには少なくとも一般的には10億円は必要だと言われるんですね、強化費がですよ。上にあがるとJリーグからの分配金とかスポンサー収入とか入場料収入とかもろもろ含めて大体3億から4億位は売上は上がると思います。今までのデータ見ても大体その位は何とかなってるんで、その分乗っければまあ10億円近いチームはできるって考えてます。一方で他はもっと使ってるのにどうやって勝つか。サッカーのテクニカルな部分は良い選手を安く獲るとか、若い選手をどう育てるかっていう所で何とかカバーしていく事を繰り返してやっていかなきゃいけない。安い予算でどう勝つかっていう話を少ししますが、北海道の若い子たちがうまくなれない限りなかなかちっちゃい予算で勝つのは難しいんですね。2年前から財前にやってもらって、当時は3億円のチームなのでただ勝つ事だけよりも若い奴をどう伸ばすかっていうトライをしてもらったと云うことです。どういう事かっていうと、今回この会にあたって斎藤さんもいろいろ書いてくれましたけど例えばバックパスが多いとかそんなゲームが多かったのは事実だと思うんですけど、これをどう伝えるかってすごく難しい。例えばレンタルで居なくなりましたけど奈良、でもまだレンタルですからね。2年前の奈良がどうだったかっていうとボールは繋げない、体はまあまあそこそこ強かったけどボールを奪ってもただ捨てちゃう。要はロングパスで前の方に蹴り出しとけばいい。そうすると観てる方はピンチが終わったから何かホッとするのは何となくわかるんですよ。だけどただボールを捨てる事しか出来ないような選手、またそれがゴールに向かって行くっていう良い見方もできるんですよ。できるんだけど奪えてもボールを失っちゃうよりは近くの味方に廻すとか中盤のボランチの選手にあてるとかっていう選択肢が沢山ある中で、彼がその選択肢もあるけどゴールに向かうっていう事だったらまあいいんですよ。これは想像の世界ですけど、2年前にただ勝つだけのリスクを犯さないサッカーをしていたとしたら僕は今の奈良は出来上がってない。ゲームの内容でパスは廻るけど前に進んでいけないっていうのは、選手が失いたくないっていう当たり前の事をやれるようになってるから安全なパスしか選択しなくなるんだけど、それさえもやんなかったらそれもできなくなって選手の価値としては、例えば当時500万円だった選手が3年後に1500万円になるよ

うには育たないと思ってるんでそういうトライをさせたと。良くも悪くもボールは廻るようにはなって一人一人は本当にうまくはなったと思います。去年の途中で財前からバルバリッチに変わったのは、うまくなったとは言え少ない予算とは言え勝たなきゃいけないってすごく難しいバランスがあった。今度はボールを廻す獲られない事が正解だっていう意識から本来の獲られない事も大事だけどゴールに向かって行くのも大事っていう意識を選手に植え付けさせるため。伝わるかどうかわかんないですけどチームにとって何が正解かって本当にいろいろあって、選手は敏感に感じる。さっきの奈良の話じゃないですけどただクリアしとけばいい、クリアする事が全て正しいというチーム、指導者もあれば、そこで蹴っちゃうようじゃ終わりだよねっていうもっと高いレベルを目指してる事が正解のチームもあったりして、どっちかっていうとまあこっち側でやってたんですよね。失う事は本当にダメな事だってどうしても選手はなっちゃうんですよ、成長の過程で。そういう事やってくとそこそこ能力はついてくるんで、今度は前に向かう。30人位しかないグループの頭の中とかマインドを一変に変えるっていうのはすごく不可能な事なので、指導者を変えながら徐々に徐々に勝てる可能性の高いようなサッカーに変えていけるかどうか。これはある意味腕の見せ所と思ってます。何かありますか、他に。

司会：大体一通り。

野々村：あんまりしゃべってもしょうがないかなと思ひ始めちゃって、むしろ聞かれた方がしゃべりやすいかな。

司会：はい、予定では質問タイムはもっと後ですけども関東の方の質問はまとまっていますか？ 関東の質問タイム入れても中継で向こう観てますか？ そうですか、今入れちゃってもいいですか？ じゃあ1番のワイヤレス、関東サポにお渡しいただけますか？ では関東サポの方でまとめられた社長への質問、どんどん繰り出しててください。

拳手者：はい、関東地区後援会川越と申します、よろしくお願いします。

野々村：お願いします。

拳手者：20ほど質問が来てます。

野々村：大丈夫ですよ、今日はもう質問がなくなるまでやりますから大丈夫です。

司会：社長、お座りになって頂いて。

野々村：いや僕大丈夫です。

司会：大丈夫ですか。

野々村：はい。

司会：では。

拳手者：はい、それでは一つ目。松山光プロジェクトの収支報告は予定されていますかという質問、集金額は多分出てたと思うんですが、具体的な使い道用途はまだ発表されていないと思うんですがその辺は出ないんでしょうか。

野々村：ある程度は出ると思いますよ、出す準備はしてます。すごく難しい所があって育成と強化、要は強化にどう使うかっていう所になってくるので。考え方としては特別なもの、遠征に行ったりユースの子達の移動費とか食費の負担とかはできたりもする。けどユース上がりの1年目の誰々の給料の一部ですみたいな事まで果たして出す事が正しいのかどうか。こんな事に費用を使っていますっていうのは近い内に。来季どんな事に使いたいっていう様な事も同時に出せると思ってます。

拳手者：ちょっと下世話な話になります。

野々村：はい、どうぞ。

拳手者：社長のTV出演料はクラブの収入になってるのか個人の収入になってるのか。

野々村：これがなかなかすごいことですね。僕は今までTVに出てお金をもらってたんですけど、今はほとんどお金をもらえない。要はギャラが発生しない形で。こっちからお願いして朝5時に行ったりしてるわけですね。個人的にはなんでTVに出てんのにお金もらえないんだと思いますけど。例えばギャラが発生するようなTVがあったとします。またいろんなところで講演はたくさんあるんで、そういうものは全部クラブです。以上です。(会場笑い)

拳手者：ありがとうございます。

野々村：いろいろあるんですよ、講演って言っても。この間も。あんまり言うとなあだ。たいそうなことをさせられて2万円ですみたいなのもあれば、普通に30万円ですというのもあったりするんですよ。セールスするのに、うちの社長ここでしゃべりますからって言って、クラブにお金が入るって言うようなことをしています。

拳手者：ありがとうございました。債務超過解消できそうという話がでてましたが、行政に返還しなければならない基金とかがあったと思うのですが、そちらは返還できているのでしょうか？

野々村：返さなきゃいけないお金はあるんですよ。その金額を少しずつにしてもらったりというような交渉はできている。それでも結構な負担ですけど返してますよ。財務超過はみなさんのおかげもあって何とかクリアはできて、多分純資産が1500万円くらいはプラスにはなってるような数字で収まると思いますけど。だけど来年2000万円赤字だったらまた債務超過なわけですよ。それじゃ僕が考えるサッカークラブはやっていけないっていうか、5億円突っ込むこと自体が今のクラブからするとすごくリスクなことなんです。だけど勝つ確率をなんとか上げたいし、みんなでこんだけ頑張ってるんだからちょっと勝つこと見せてあげたいという思いもあるし、成長をとぎらせてはいけないと思うから突っ込むわけですよ。去年がベースとすると、去年よりも1億円以上売り上げを多くしなきゃいけないということは、1億円多く突っ込んでるわけですよ。突っ込んで、その1億5000万円を回収するって言うようなことをやるのが普通サッカークラブだと思うんですけど資本にまったく余裕がない。例えば資本金がまだ3億円残ってますというようなクラブだとしたら、今年僕らがやろうとするトライをして、うまくいなくてマイナス1億円ですというようなことがあったとしても、資本から1億なくなっちゃって2億円になってはしまうけれども、債務超過にはならない。Jリーグのルールで3期連続の赤字もクラブライセンスアウトというようなルール。繰り返すけど、サッカークラブなんで選手を取ってチームを強くしてお客さんを呼ぼうっていうような投資をするのが絶対必要だと思うんですけど。2年目もやったけどそれに失敗したとしても3年目は地に足着いた経営をして黒字にすればクラブライセンスを与えますよって。積極的にやらないといけないのにコンサドーレはそれができずらい状況で、債務超過解消したけどたいして変わってないということをご理解いただきたい。資本政策をどうするかみたいなことはまたクラブとしても考えなければいけないと思っています。

拳手者：次にクラブ運営に関してなんですけれども、昨年度クラブ向上委員会が2回しかやってないと言われているんですが、せつかくやるならもっと生かしてほしいとか、積極的に推進してほしいという意見がでてますが、いかがお考えでしょうか？

野々村：クラブの中で担当していたものがそこまで回らなくなっちゃったって言うのが事実だと思います。来年に関しては月1回開催できるように、今話を進めています。マンパワーが足りなかったとかスタッフも何人か途中でやめていたりもするんで、社内の事情ではあるんですけども今期に関してはもう一回やっていくって言うことになってます。

拳手者：女子チーム創設の話なんですけど、ノルディニアと関係性はどう考えておらっしゃるのか、北海道の女子サッカーについてどうしていきたいと考えておられるのか、ご意見をお願いします。

野々村：ノルディーアとの関係について特に何も考えてないです。ネガティブなことがあるとはまったく思っていない。女子サッカー、プレーする場がないのが現状なんですよ。小学生では男子チームに混じってサッカーしているけれども、中学校に上がると本当はない。北海道に限ったことではないですけど、そこをカバーできるようにしたほうがいいという観点がひとつ。それから男子プロがあればいいというようなクラブとは思っていないので、いろんなスポーツの団体、グループ、コンサドーレにしたいと思ってます。その一歩として一番近い存在の女子チームを作ったのが経緯ですね。協力したいと思ってくれる企業さんもすごく多かったですごくいいトライをしたんじゃないかなとは思ってます。

拳手者：次にアカデミーに関して。アカデミーの活動についての情報公開ですが、試合の予定と結果がでてますけども、練習試合や遠征の情報などがでてないという意見がありました。またプレミアリーグの公式サイト等にリンクするなどしてほしい。アカデミーの情報収集するのが大変だという意見が関東の方から上がってきています。

野々村：検討します。そこもマンパワーの問題ですよ。今クラブにいる広報でその仕事をやるとかっていうのは絶対に無理っていうくらい案件が多すぎるので、新しい人をいれるか、またはユースとかジュニアユースコーチもできるようにするか、どちらかですよ。いずれにしてもかなりパワーが必要なので、うまいこと考えてやっていけないんだと今聞いてそう感じました。

拳手者：あともうひとつ。アカデミーが注目されているので、アカデミーのユニフォームにもっとスポンサーをつける方向はどうでしょうかという意見があるんですが。

野々村：そこも去年まで線引きがされてなかった。トップチームのユニフォームスポンサーと契約をしているというような感覚で今までやってきて、ユースはユースで胸を売るとか背中を売るとかいうようなことがなかったの、それは別でというふうにしてます。

拳手者：ありがとうございます。次に選手移籍に関して。内山選手の期限付き移籍が提携していないチーム、シンガポールに行くことはどういった経緯があったんでしょうか？

野々村：僕の知り合いの知り合いです。(会場笑い) 僕すごくいい連れがいるんですけど、そんなのどうでもいいですけどね。その友達、友達じゃないかな、親戚みたいな。なんらかコンサドーレと関係を持ちたいという話以前からあって、プレーする先として探っている中で、そのチームということになったということなんです、はい。

拳手者：あと情報発信についてなんですが、先ほどもいろいろご検討されているということなんですが、例えばチャオコンに横野選手の情報が残ってるなどマメにやってほしいという意見がでますので。

野々村：それはそう思います。新しく3月から一人広報を取ろうと思ってます。これがひとつの解決策かなと。能力の問題はもちろんあるけれどもマンパワーが足りない。2人体制を3人体制にして、なおかつ仕事の量を分散させることを会社の中では始めていると。そういうのは多いな、できないって。申し訳ないんですけどそんな感じです。

拳手者：英語のサイトに関して同じような意見が出てたんでよろしくお願いします。

野々村：HPもリニューアルしなくちゃいけないで、リニューアルするときに英語サイトも準備をするっていうようなことを考えています。

拳手者：その他、今こちらでトレサポの受付をなされているようですがでも団体名はOKなんですか。例えば関東地区後援会で入れられないとか、どうなんですか。

野々村：入れられなくはないとは思いますが、こっちの決めの問題なんですよ。個人的には個人のほうがいいかなと。もともと背番号でやりたかったんですよ。公式戦の背番号にサポートしている人の名前を背負ってプレーしてもらいたかった。2mm×2mmくらいの顔写真を並べて、背番号にしたかったんですよ。そういうことし

ているクラブが海外にもあったのでやりたいなと準備をしていたんだけど、今年のユニフォームに関しては間に合わない。名前だったらプリントするのもそんな時間もかからないのでできますとメーカーさんが言ってたんで、じゃ名前にしようとしてJリーグに聞いたんですよね。結論とするとダメだっていうんですよ。ルールがあって、ユニフォームには政治的または宗教的個人的なメッセージやスローガンを入れてはいけないって。それは分かりますよね、どっかに変なスローガンを書いたりしたりしたらダメだっていうの。個人の名前がほとんど見えないような形なのに、なんのメッセージスローガンがあって条項にひっかかるのか僕には全然理解できないんですけど、ダメだと。サポーターのコアな人達には感覚としてわかってもらいたくて、それをやろうとした。話ずれちゃいましたけど、そこに団体の名前がもし入るとするとなんらかのメッセージと取られてもおかしくないというか。関東サポの団体ですだったら悪くはないけど、企業の名前とかなんかの名前が入ったりするとつつかれる可能性はある。練習着に関してはいいんだけど、将来的に背番号にそういうようなことをJが認めたときには絶対にできなくなっちゃうと思うのでまず練習着でトライして、Jに認めてもらって背番号でトライしたいと考えているので、できれば個人の名前のほうがいいかなとは思っています。

挙手者：ありがとうございます。次にメーカーさんの都合がある件だと思うのですが、ユニフォームの予約についてももう少し余裕のある納期にならないかというご要望があります。先行予約でも開幕に間に合うかどうか微妙なのはちょっとつらいという意見がでておりますが。

野々村：メーカーにお願いします。

挙手者：次に昨年度から月曜ナイターの試合が始まったので、今年度もありますが、その中でサッカー少年が観戦できるようにという主旨があったという思いがあるんですが、実際そういう効果はあったんでしょうか。

野々村：まあまあ、あったんじゃないですか。普段これない人が来ているというのはあったと思いますけど、もっとたくさん少年団に対してアプローチできるような。札幌サッカー協会と連動してやったときはすごく少年団の子達が親御さん含めて来てくれたりしたときはあった。そもそも月曜日にやりたいわけでは全然ないっていうことですよね。これもクラブライセンスの問題で、80%をライセンスで認められたスタジアムでやらなくてはならないというルールがある。北海道にはライセンスで認められたのはドームしかないわけですよ。17試合やりたいっていうオーダーを出しても、そこは野球がそこはコンサートがみたいなのがあるんで、ああいうスケジュールになってしまっている。向こうに対して努力はするけれども現状ドームサイドからすると、それよりコンサートのほうが儲かるんだよねみたいなことがあるのは事実だと思います。じゃあどうするか。そのスケジュールしか組めないとなるとそこで最大値を出すような努力をしなくちゃいけない。もっというと他にいいスタジアムできないのって考えなくちゃいけない、そんな感じです。

挙手者：はい、関東から午前中に集まった質問は途中お答えがあった分は割愛させて。

野々村：もう20個終わりました？

挙手者：はい以上です。ありがとうございました。

野々村：ありがとうございました。

司会：ありがとうございます。一旦休憩を挟みます。

野々村：じゃあみなさん、質問を考えておいてください。

司会：後ろの時計で15分まで10分間休憩させていただきます。

*****休憩*****

司会：扉を閉めていただいて、それではまた引き続き始めていきます。では、関東サポからひと通りご質問終わり

ましたので、ここにお集まりのサポーターからご質問がありましたら、挙手で承ります。はい、淡路さんどうぞ。(会場笑)

挙手者：ドイと言います。

野々村：お願いします。

挙手者：質問をひとつと、あとお願いとか思いをひとつ伝えたいと思います。質問はコンサドーレから2年連続で選手を武者修行に出しましたタイのコンケーンが降格してひとつディビジョンが落ちたと思うのですが、こちらも遠征計画立てるつもりでもありまして、今シーズン派遣されるのかどうか。(会場笑)それが質問ひとつです。

野々村：はい。今のところ言えるような予定はないですね。若い選手を外にレンタルで、今年も出してますけど、どういう意図で出すかみたいなところを僕の考えとして伝えます。チームは37人、今年いる。これは圧倒的に他のクラブより多いんですよ。なんで多いか、怪我人も含めて週末のJリーグだけのことを考えれば怪我人を考慮しても、他チームと同じように25~30くらいで全然いいと思うんですよ。だけど週の間には必ずトレーニングゲームをしなくちゃいけない。じゃあ相手がある程度のレベルで北海道にあるかっていうと、平日できるようなそんなチームはないわけですよ。関東とか他の地域だったら陸続きなんでちょっと離れててもプロまたはそれに準じるチームと週末、ウィークデイにトレーニングゲームができる。でもコンサドーレはその相手がなかなかいなくてできない。だったらクラブの中である程度高いレベルの紅白戦をやらなきゃいけないので、そういうことも含めて人数が多いということがひとつあります。だけどシーズンが流れていくと、トレーニングゲームで高いレベルが必要ない時期もあったりして、そこでゲームに関わっていない若い選手がプレーできるような環境を与えなきゃいけない、いろんなところにあたって武者修行に出すようにしていると。若いときにいたけれども最後までコンサドーレでプレーができる選手は普通に考えるとそう多くないんですよ。さっき話しましたけれど、14億円のチーム規模だったら何人か残れるかもしれないけど、こっちも20億とか30億にしていかなければいけないワケですよ。20億とか30億になったときにはもっと少なくなるんです。コンサドーレ上がりの選手がプレーできる可能性は、プレーしてほしいと思いますけどね。一応プレイヤーの先輩として、どこに行ってもできるようにならないと選手としてはメシ食えなくなるわけですよ。で、いろんなところに選手出すのは、例えばタイ、タイでその選手がどれだけ活躍できるかはタイのサッカー関係者は見てる。最終的にクラブに戻ってきていい仕事をしてほしいっていうことを思う一方で、選手として自分の食える場所を探してくるということも、一人のプレイヤーとして絶対に必要なことだと思うんですよ。だからタイにあって、タイのチームに認められて一段ステップアップするとかっていうようなことをクラブとしてお金を払ってでもさせてあげるってのは、選手あがりの僕としてはすごくありがたい仕組みを提供してあげてるってことには若いやつらには常々言っている。例えば1年2年でクラブを終わって次、うちが契約しないような選手が当然プロの世界なんかでてくると思うんですね。去年も一昨年も何人かいるわけです。それはどこの世界にもあるわけですけど。ルーキーの選手でも途中から入ってくる選手でも、やっぱりその選手の評価とか立ち位置っていうのはだいたい契約で決まるわけですよ。例えば3年契約をする選手、2年1年または半年契約の選手。その選手は契約の期間内になんらかの結果を出さないといけないというスタートポジションということは選手個人個人は分かっている。それでコンサドーレと契約しないというふうになったときに、日本的な感覚だと思うんですけど終わりだと思っちゃう人が多いし、多くの人がそう思ってる。だけど全然そんなふうには思わなくて、このクラブで契約はしてもらえなかったとしても別のクラブでチャレンジできるわけですよ。それができなかつたら、その選手はサッカー選手やってる意味がなくなつて。日本ってプロ野球が長く、スポーツといえばプロ野球みたいな感覚でてるんで、6チームとか12チームしかない中で首になったらもう終わりだなんていう感覚が多くの人にあると。だけどサッカーはうちを終わったとしてもそれこそタイに行く、マレーシアに行く、シンガポールに行くというような選択肢は無限にあるですよ。実際にタイでは60人くらいの日本の選手がサッカーをしていて、その中でJリーグ上がりなんて10人くらいしかいない。Jリーグに引かかからなかったけれども、サッカー選手として生きて生きていたいという思いを持った人達が50人くらいタイでサッカーしているわけですよ。東南アジアとか南米とか全部ひっくるめれば、みんなが知らないようなサッカー選手が多分何百というわけですよ。昔よく寿司屋の職人は世界のどこにいてもメシが食えるというふう聞いたんですけど、僕はサッカーのほうがよっぽど、どこいったってやれる可能性があると思ってる。そのくらいのたくましさ。自分はコンサドーレでまずサッカー選手になった、そのきっかけを与えたのはコンサドーレで、そのあといろんなところに行こうが

プレイヤーとして強く生き残っていけるような感覚っていうのを若いうちに持たないと結構苦労するかなと。環境が恵まれないけど外にトライさせる。そこで表現させてアピールするのもひとつだし、その環境で学んで持ち帰ってきてうちのチームでやるのもひとつだしっていうような考え方で選手を外に出すっていうようなことをしてます。レンタル料としてお金をもらえればいいですけどほとんどがもらえない、もらえるところもあるんですけどね。奈良君はもらってますから、大丈夫です。(会場笑)

司会：よろしいですか？

拳手者：丁寧にありがとうございます。

野々村：はい。

拳手者：そしたらひとつお願い的なことで厚別開催試合の事です。4試合というのは十分承知していますので、増やせなどというのは絶対言いませんので。開催日ですけれども、去年のシーズンであれば、5月31日から6月28日の4週間の間に3試合して、10月に1試合。今シーズンは7月に厚別開幕戦があって9月下旬から11月1日あまりの間にまた3試合。いろいろと日程の制約があるのは承知させていただいておるんですけど、出来ましたら好きな4試合を気候のよい5月から8月9月の間に月に1試合ずつくらいいただけたらなと。

野々村：僕もおんなじ思いですけどね。

拳手者：今年は11月1日という日がありまして、他のプロ競技の日程は全然しらないんですけども、航空券押さえておるのに突然またドームに変わるとかいうことのないようにお願いしたいというそのような思いです。よろしくお願いします。ありがとうございます。

野々村：最後のあれですよね。野球が使わなかった場合はという話ですか？

拳手者：はっきり言ってそうです。2週間くらい前になって、ひと月くらい前になって変更しますというのがあったら困るよなという思いです。

野々村：それはすみません。困るのはなんですか？

拳手者：やっぱり厚別のほうに行きたいから。安い航空券とかいろいろとっておるのに。できれば厚別で見たいという思いからなんです。

野々村：はい。最後のところはちょっとなんとも言えないですね。厚別がすごく好きだっていう人達がたくさんいることは全然よくわかってます。でもそれはコアな人達であって。その人達を別にないがしろにしているわけじゃないですよ。ないわけではないけれども、やっぱりサッカーを見る環境が進歩しない限り、サッカーは終わっていく可能性が結構高いんですよ。伸びていかない。イタリアがうまくいかないのはスタジアムがそんな感じのところばかりになっちゃってるからで、ドイツがうまくいってるのはスタジアムがきれいで、イングランドも同じ。25年前にできた厚別で、初めてちょっとあそこに行ってみようかなっていうふうな感覚を持つ人は少ないんですよ。そこはご理解いただきたい。野球はどうなるかわからないですけど、もしうちが使えるようになった場合は変える可能性が高いと思います。先に謝っておきます。

拳手者：間際まで航空券とらんようにします。

野々村：はい、もう。あとはスケジュールですけど、多分全試合ドームでやる前提で投げてるけれども月曜がでてきちゃうとかということなので。さっきも言いましたけど、それを改善するには新しいスタジアムがあるとか。そんな感じですよ。

司会：はい、ありがとうございます。じゃ、他にご質問。はい、どうぞ。

拳手者：よろしくお願ひします。ふたつよろしいでしょうか。まず今何度か出ているサッカースタジアム。

司会：あつ、すみません。お名前を名乗つてからお願ひします。

拳手者：セリカワと申します。スポンサーのひまわり所属です。

野々村：お！ありがとうございます。

拳手者：無料提携チケットありがとうございます。何度か出るサッカースタジアム建設なんですけれども、僕も何十年とコンサドーレが続く中で絶対必要なものだと思つて、実際にドイツに2年前行つてきましてスタジアムを見てきたんですよ。例えばバイエルンだったらメガストアつていうスタジアム内にすごいかいGOODSショップがあつて、ずっと人であふれてる状態であつていう楽しみがあつたり。実際に試合見たのはデュッセルドルフ、すごい寒かつたんですけど階段があるところほぼ全てにトイレがあつたり。スタジアムをよくすることによって多分ドイツは成功したと思ふんですよ。もし将来コンサドーレがサッカースタジアム持つた場合に、今のなんとなくのイメージでいいんですけど何万人規模でどの位置にあつて、こういったサービスがあればいいんじゃないかというのがなんとなくあれば教えていただきたいです。

野々村：はい。規模は2万人とかですね。3万？2万人くらいでいいんじゃないかな？まあわかんないす。わかんないつて言うのは、いつそれを実現させようと思ふかで違ふと思ふんです。今実現させようと思つても、何年か後になるわけですよ。で、今のコンサドーレの大きさからすると、集客も含めて考えると2万人でいいかなど。もしかしてなくなっちゃうんではないかというふうな感覚ももてるくらいスタジアムには今の人数でもたくさん見えたりする。そのくらいでいい。当然だけどアクセスはよくないといけな。大駅の近くで、どういふ場所があるかつていうことを考えないといけな。もうひとつは週末のゲーム以外でどうやってスタジアムまた近辺を稼働させるかということを考えないといけな。ごめんなさいね、個人的な感覚というか考えですけど、コンサドーレ幼稚園があつてコンサドーレつて名前じゃなくていいですけど元気なおじいちゃんおばあちゃんが住んでるようなところがあつて、おじいちゃんおばあちゃんが子供の面倒をみるし、うちのスタッフとかサッカー上がりの選手が練習してないピッチとかトレーニングするようなところで子供達と遊んだり、おじいちゃんおばあちゃんと遊んだり、日常がそこにあるようなものを作つて。日常があるつてことはスーパーマーケットかなんか分からないですけど、多くの人々が常にそのエリアを中心にある程度生活ができるようなもので収益があがるものをセットで作つていふようなイメージを個人的には持つてます。作るにあつてはお金が必要なので、どういふ形で集めるかということも当然考えなければいけなし、行政と関係なくできるかつていうとそれもなかなか現実的ではないので、いろんところとうまく話をしながら詰めていけなといけなことだとは十分認識してる。みんなでお金を作るつていふようなイメージで考えてはいます。はい、いいよ、どうぞもういっこ。

拳手者：社長がJリーグラボでガンガン推してたアジア戦略、結構話題の出る。今Jリーグでも全体的に進めて、正直日本国内の市場が頭打ちの中で今後絶対必要だとは思ふのですけれども、コンサドーレは積極的に行つてまして、レコンビンだったり今年のイルファンだったり、将来的にはイルファンが活躍してくれればGOODS等の収益などなどいろいろあると思ふのですけれども、ここ何年も提携クラブを増やしたり工夫したりして行く中で、最終的にアジアのお金がヨーロッパに行つているのを日本に流れてくるのは理想だと思ふのですが。コンサドーレがアジアのお金流れるような仕組みになるために、どういふのが究極の形といひますか、うまくいつて。

野々村：これはコンサドーレが独自にやつて放映権を取るつていふことなんですけど、プレミアリーグには何百億円というお金が行くわけですよ、放映権で。東南アジアの人達はイングランドプレミアリーグをたくさん見るので、それだけのお金が行くつていふと。リーグとしてやらない限り、コンサドーレにもある程度の大きなお金が落ちてくるとは僕はあんまり思つてない。だから、Jリーグがしっかり認知されるまづきっかけになるために、うちのクラブから始めようつていふようなことで始めている。それとは別に、最初にも言ひましたけれどサッカークラブの価値をしっかりと国内の人に認めてもらうためにも、アジアに出る行くことで、北海道のプロモーションになつたり札幌のプロモーションになつたりつていふようなことを、ベトナムだけじゃなくいろいろな提携している国となにかをすることでPRできるんじゃないですか。間接的に北海道に来るお客さんが増えるとか、そのきつ

けがコンサドーレだったっていうだけでもいいかなという二つの側面でアジア戦略をトライしているっていうそんな感じですね。レコンビン取っていくらもうかったのかみたいなことをよく聞かれますけど、もう3年前くらいだからいいんですけど、あれで2~3千万くらいもうかってるんですよ。そのくらいのことをちょこちょこやりながら、いつの日か数億円とかっていう単位でお金になるかどうかは、僕らというよりリーグの頑張りがないとダメだと思ってます。

挙手者：ありがとうございます。

司会：はい。その他に後ろの方、どうぞ。ちょっと見えないです、すみません。

挙手者：タケダと申します。先ほど関東サポからの回答の中で、前期末は1500万円の純資産が生じたといつて、正直言いましてびっくりしました。確かその前の年、3000万超過でしたから4500万くらい黒字になったと思います。それで、今年2000万赤字だとたちまち債務超過になると。その通りだと思います。貯金マイナス500万円になっちゃうということで、で、例えば一昨年から石屋製菓さんが結構寄付金とか出してくださってると思うんですね。一昨年だと8500万円だったはずですよ。おそらく去年もそれなりにスポンサー料のほかに寄付金出していたいたとは思うんですね。

野々村：去年は出してもらってないですよ。

挙手者：出してもらってないんですか？

野々村：はい。

挙手者：そしたらお金の費目課目は違っても、一昨年は特別利益として寄付金名目で8500万円入ってたんですけども。それでスポンサー料1億2000万と別口で入ってたんですけどね。昨年度はそしたらスポンサー料は増えたとかないのですか？

野々村：そういうことですね。だから石屋製菓に限らずですけど、クラブのひとつの仕事でもありひとつの努力の結果だと思いますけど、上積みしてもらおうというような作業をして、石屋製菓さんもその中で今までとはまた違った金額で契約したってということになります。

挙手者：あっそうすると、おそらく増えたんだと思います。

野々村：それはもう、もちろんもちろん。

挙手者：じゃあ、他の企業さんも増えたということですか。

野々村：増えたところも新規で入っていただいたところもあるし、それこそひまわりさんもそうだし。今期に関して言うと例えばサツドラとかね、チッチのノーザンホースパークとかそういう仲間は少しずつでも増やしていかないと。2年前から前年よりも1億円ずつ増やさないといけないうような中でまわしてきているので、協力してくれてるところは増えています。

挙手者：わかりました。寄付金という形でもスポンサー料でも結構で問題ないんですけども。最後に今年5億円の強化費予算は非常に冒険だといわれたんですけども、去年から4億から5億と増えたんですけど、そうすると今年の収入もそれぞれ興行収入とか広告料収入とか、それぞれみんな去年より更に増えてるんでしょうか。

野々村：あのだから、確定はしないのがサッカークラブの難しいところなので、増やすようにしなきゃいけないっていう、そういう感じなんですよ。

挙手者：参考までにもしよろしければだいたい今期の予算、興行収入とか広告料収入とか販売収入とかその他収入

とか分配金とか内訳大まかでいいので。

野々村：ええ、いいですよ。

13年シーズン結果と去年の結果から言うと興行収入、お客さんからいただくものがほしい13年シーズンが3億3000くらいだったんですね。で、去年が4億弱。今年はそれを4億5000くらいにしないといけないというか、チャレンジしなきゃいけないと思ってます。スポンサーの広告収入は13年が4億3000くらい。去年が5億9000弱。それを今期は6億4000くらいにするような努力をする。あとはGOODSとか販売収入が13年が1億3000弱。去年が1億5000。あつごめんなさい、間違ってる。販売収入1億4000ぐらいがファンクラブ会費とか選手の移籍金とかってというような物ですけど、それは平年通りぐらい何とか維持出来るように。ただここは移籍金が入るような所なので、ある選手が来年どうなるかっていう所をだいたい変わっては来ますけど。心配な方がいるかもしれませんが、ある選手の事はあれですよ。そりゃあしっかりいろんな握りがされてますから心配しないで下さい。ある選手がそれなりに活躍すると何千万円、そんなに活躍しないと何千万円みたいなオプションは付いてます。ただ行使するかどうかは向こうが決める事なので、やっぱりお戻りくださいと言われる可能性もありますけど、そんな時はうちで頑張ってくれりゃあいい。後は何があったかな。グッズとかの収入、予算ですけど13年が7600万、去年が9000万、それを1億ちょいぐらいにしたいなっていうような数字。Jリーグの分配金は大体1億で毎年J2だとそのくらいなので、それを維持出来るようにしましょうっていうような感じですかね。

拳手者：いろいろ、大変詳細にありがとうございました。

野々村：だからこれ、大変だな〜って感じするじゃないですか。何とか、皆でちょっと頑張らましようよっていう。

司会：はい、ありがとうございます。他にありませんか。はい、真ん中の方。お名前を名乗ってからお願いします。

拳手者：スドウと申します。宜しくお願いします。個人的な感覚ですけどもスタジアムの広告の事なんですけど、SS席の所から見てもB自由席の方の広告が見えない。B自由席にいてもSSの方の広告も見えない。

野々村：同じ広告が両方見えない事ではなくて、見えない広告があるって事ですね。

拳手者：札幌ドームのホバリングステージが高いから見えないんだなって思うんですけども。ただスカパーとかで他のチームの試合とかを見るといろんな広告が見えるんですけども、やっぱりテレビではコンサドーレの広告は映らないなっていうのが感覚であるんですけども。

野々村：テレビだと映んない。

拳手者：テレビでも見えないなって感覚があります。スカパーのたぶん一番最初の解説とかが紹介している所、スタジアム全体映してたら見えるかもしれないんですけども。後はピッチの広告しか僕は見えないなって感覚を持っていて、たぶんドームが出来てからずっと同じ感覚を持ってて改善してもいいのかなっていう風には結構思ってます。

野々村：うん、確かにまあね。誰がどう見た時に効果的かみたいな事。今言ったみたいにスタジアムで見た時に見えないけど、テレビだとすげ〜見えるみたいな置き方を本来はするべきなんだと思う。なぜならテレビを見ている人が圧倒的に多いと考えるから。だけどスカパー見ている人、どんだけいるのかなとかっていう事を考えると、何が正しいのか難しい所ではあるけれども、見やすいようにもうちょっと上げた方がいいんじゃないかと、同じような質問はよくされたりするんですよ。ゴール裏のもうちょっと高くした方がいいんじゃないかとっていうような事。だけど、高くすると今度はテレビに映んなくなったりするんで、これが、普通に地上波で流れてるとかっていう事で、視聴者が圧倒的にこっちの方が多いんだとしたら、完全にテレビ用の置き方にすればいいと思うんですけど、その所がまだ。もしかすると両方とも見にくい所あるかもしれないけど、もしあるとしたら改善した方がいいなとは思っている。けれどもそもそもスタジアムの人が見る事を期待した広告なのか、画面を通して見る人を期待した広告なのかを考えたんだけど、どっちが本当に視聴者が多いのかが数字としてよく分からないので、ちょっと中途半端になっている事があるかもしれない。クラブとしても、もう一回そこそこは検討した方がいいかと常々思ってます。

いるんですけどね。今日営業もいたりするんで検討すると思います。

拳手者：あと、今年の楽しみのひとつとして、札幌ドーム大型ビジョンふたつ出来ると思うんですけども、何か具体的に面白い事とか考えてるんですか。

野々村：ごめんなさい。その会議に出てないんで何ともわかんないんですけど、考えてはいるんだと思う。個人的には折角ふたつあるんだから。あのビジョンを全然活用出来てないというのはあるんですよね。スタジアムに来た時に映るだけで楽しいじゃないですか。だけど全然映さないじゃないですか。それにもまあ理由があって、映す為に専用カメラを一台入れなきゃいけない訳ですよ。テレビ中継をする方にとっては、人件費とそのカメラ代で製作費を使わなきゃいけない訳ですよ。その予算がないから、人が足りなくてスタジアムを追っかけるようなカメラがピッチ上に置いてない。そこをクラブがお金出してでも一台入れてもらって、それに映る事が楽しいっていう人が増えてお客さんが入ってくるかどうか。シーズン通して何百万円使って、何百万円以上のお客さんが来る様な事が出来るかどうかという所を、ちょっと考えないといけないな。もちろんテレビ局が勝手にカメラ出してくれればいいんですけどね。そういう使い方はしたいとは思っています。あと、何かありますか。他に何か楽しい使い方。オフサイドだったらずっと流してやりますけど。(会場笑)

拳手者：まだ全然イメージは湧かないです。昔福岡に行った時、たまたまヤフードーム行った時は5つ確かビジョンがあったと思うので、全部違う映像が流れてたのはすごい印象的で覚えています。試合前とか、試合中もそうですね。ホームラン出たら、それはすごく良かったなと思うんで。

野々村：その辺は考えた方がいいよね。オフサイドのさっき話しましたが、微妙な判定は流さないようにという様な、たぶんあるんですよね。でもうちがもしやられたら、流してやりたいですけどね。(会場笑)

拳手者：ありがとうございます。

野々村：はい、ありがとうございます。

司会：はい、ありがとうございます。そちらの方、次当てますんで。ここで時間が来ましたので、サポーターからの連絡をされたいという方、CVSの方とかいらしゃってますか。はい、ではCVSの方発表して頂くのと関東サポの方からも連絡ありましたよね。はい、まずCVSの方から先に。すいません。社長、ちょっとお座り頂いて、申し訳ないです。サポーター間の連絡に移らせて頂きます。その後質問させていただきますので、すいません。

CVSの方：皆さん、こんにちは。今日は丁度近くにメンバーがいまして、私達CVSで普段スタジアムで皆様をお迎えしております。皆様、試合の運営、席詰めなどご協力ありがとうございます。今回チラシを手元にお配りして、早めに来た人にはあたってない方いらっしゃるかもしれませんが、後ろの方に用意してありますので、良かったらご覧頂きたいと思います。今年度もCVSスタッフ募集をしております。宜しければ是非ここにいる皆様にもお仲間になって頂きたいと思ひまして、今回お時間を取って頂きました。今回冬の期間にボランティア担当の社員さんに、私達がやる事の経済効果って何という事を実際聞きまして、先日回答がありました。それが稲本ひとり分だよという回答を頂きました。つまりそのくらいの効果があるという事と、先程スタジアムのお客さんを映すのに数百万円、という事は我々少し足りない感じなんです。もし皆様が、大体100人くらいの方が入って頂けるときってテレビ代も稼げるのではないかと。我々がやるとバイトさんが減ってその分。もうひとつ、CVSが出来た経緯は皆さんご存じの通り、コンサドールにお金がなくてその分の試合運営をボランティアでという経緯があったと思いますが、ここ数年試合運営参画するっていう場面が多くなって来たと思います。まずは来場してきたお客様に対して楽しくて安全な観戦を提供する。例えば初めてきたようなお客さんが楽しく安全に観戦して頂ける事で次の来場に繋がり、それがどんどん繋がって来る事によって我々のようなコアサポに誕生し、その中でまたスタッフになって頂けると。実際試合運営に関して意見を言う事もあります。実際活かされる経緯もありまして、例えば札幌ドームの大階段ありますよね。あそこは、今年か去年ぐらいのシーズンから手すりに「ここにお座りにならないでください」という表示をしてもらえる事が出来るようになりました。その意見も我々ボランティアスタッフから、手すりの所に座っているお客様がいっぱいだったので何か表示があるといいのではないのでしょうかという意見が実った成果もあります。最後になりますが、チケットを買ってグッズを買ってコンサドールに寄付をするっていうサ

ポート活動もありますが、是非その中でCVSで試合運営のスタッフとして、チームに貢献をしていきませんかというご案内でした。もし宜しければ、チラシの方に案内先が書いておりますので、是非今シーズンからお仲間になって頂きたいと思います。ありがとうございます。

司会：ありがとうございます。(会場拍手) CVSの皆さんはピッチに背中を向けて応援して頂く、我々と同じサポーターでございます。我々サポーターもジュースを飲んだ後やお弁当がらを自分達でゴミ箱へきちっと持って行くというの、やっぱり仲間であるCVSがそれを片づけてくれている、仲間に迷惑を掛けてはいけないという事からひとりひとりがきちっとゴミ箱に物を捨てるようになり、それがアウェイの所謂他チームのスタジアムに行ってもゴミをきちっと片づけて帰るのが、やっぱりコンサドーレサポーターのいい所だと思います。ほんとにCVSの皆さん、ありがとうございます。これからも、宜しくお願いします。それでは関東サポの方からの連絡お願いします。

関東サポの方：関東後援会関東地区後援会からお知らせをさせていただきます。来る開幕栃木戦、関東地区後援会はクラブパートナーのJTB北海道様と一緒に関東からの応援ツアーバスを企画しております。新宿から5300円、もう一台は当日羽田から5700円で栃木スタジアムまで往復。帰りは新宿着になりますが、当日移動される札幌から北海道から来るサポーターの為に一台、羽田から準備する事を計画しております。ここ2、3日中に新宿の方を先に募集しまして、その後に羽田から栃木まで行くバスを募集致します。この話を皆様の中で広めて頂きたいと思ひますし、当日移動で栃木に向かう方は是非関東地区後援会のバスツアーで移動して頂ければと考えております。ご協力をお願いします。以上です。

司会：はい、ありがとうございます。その他にサポーター間の連絡ございませんでしょうか。皆さん、ご予約もありましたので、近い時間にしたかったので間に挟めさせて頂きました。それでは社長申し訳ありません。質問の方、続きます。すいません。お願い致します。お名前を名乗ってからお願い致します。

挙手者：オオタケと申します。3点ほど質問と、あとお願いと言うか。まず先程社長から選手の話があったんですけども、あの選手は。社長の中では向こう側が、来年度握ってるみたいになってというのがあったんですけど、私の中ではうちが今年度J1に上がって、そうすればあの選手は戻って来るっていう選択は、例えば社長の中にあるのかな。

野々村：それはもう、全然ありますよ。そもそもが、うちでやれよって思ってますから。まあ、だけど本人の気持ちも含めてわからなくはないので、今みたいな形になってるんで、うちが上がって戻って来たいと言うなら戻って来る事になるんじゃないっすかね。まあ、その時には何千万円がなくなりますけどね。

挙手者：まあお金とかやっぱり、ほんとにあの選手ユース上がりだし。私としてはですよ。まさに松山光プロジェクトの、まあ荒野選手もいますけど。

野々村：まあそうですよ。そりゃあもうほんとね。そう思いますけどね。戻って来たいって思えるようになるには、やっぱ、でっかくなるとそうは思わないと思うんですよ。まだまだ20そこそこの奴が将来ヨーロッパでやりたいとか、日本代表でやりたいとかっていうふうを考えるのは当然の事なんで、だから残念だけれども皆さんも含めて僕らは、クラブをどう大きくするかっていう事をやって行くという。サポーターとしてそのゲームに勝つ事を応援するという事もサポートですけど、そもそもやっぱクラブを大きくするって方がよっぽど勝つ確率を早く高められるって、そっちをやれば彼も戻って来ると思うんじゃないかと思うんですけどね。

挙手者：分かりました。二つ目が稲本選手。獲得ってなったんですけども、会見の時に一番最初に声を掛けてもらったって。結構、それって色んな選手が良く言うじゃない、最初に声掛けてくれたから決めたんだって言うのを。いろんな選手聞く中で、稲本選手は確かあれ2日後にオファーもらったというふうに言ってました。ただ、あの時期って来季の編成に向けて、いろいろ来年の予算とかも含めてどういう選手を取ろうかっていう時期だと思うんですよ。で、特に今年の場合バルバリッチ監督との来季の契約の中で、何となくバルバリッチさんもやるにはこういう選手が欲しいよっていうのもあったのかなと思ひながらも、そういうのってやっぱり私の中では三上GMが中心となっているのかなとも思うんですよ。ただ、2日後のオファーっていうのはトップが決断してやらないと出

来ないような気もして。となると何か野々村粋みたいな、社長がこの選手欲しい時は、俺はやるんだみたいなのがあるのか、三上GMと話しながらイナにオファー出そうかって決めたのか、ちょっとその辺を聞きたいんです。

野々村：ああ、なるほど。別に何でも喋っちゃうからいいんですけど。今の野々村粋です。何でそうしたかということですね。稲本は当時、川崎と来年契約はないって事は外にも喋ってなかったけれども、新聞に出たんですよね。来季もないんじゃないかと。おっしゃる通り、バルバリッチとか強化担当とかとも話をして採るのが当たり前なだけども、僕は絶対採った方がいいと思ったんですよ。で、すぐに電話をしたいけど電話番号わかんないんで、うちにいいスカウトがいるんですよ、小野信二っていういいスカウトが。(会場笑) 信二に電話をして、ちょっとイナに電話しろって言って、金はないけど絶対一緒にやりたいっていうふうに連絡をさせたんですよね。その敏腕信ちゃんが3分後に折り返して電話掛けて来て、いや、イナ良い感じですよって。(会場笑) お前、金ねえって言ったかって言ったら、言いましたって。それで当然事後報告。って言うてもまだあの時決まってる訳じゃないので、こういう話をしたいって事は、三上中心に現場監督とかにも話をして、デフェンダーだったらこいつかこいつかこいつを採りたいっていうような選手が当然、当時もいたんだけど、そこに急に稲本が入ってきて、じゃあどうするかみたいな話は彼らでつめてもらったっていうのが事実です。でも、早めに言って良かったなと思いましたよ。小野信二、良く頑張ったと思います、僕は。

拳手者：じゃあ、社長ですね。その野々村粋に私的には今野を、ちょっとこう入れといて頂けると。

野々村：もうとっくに入ってますよ。

拳手者：あ、入ってた。(会場笑)

野々村：だけど、今のままだったら無理ですよ。今のままっていうのは、じゃあ今野一体幾らもらってるんだっていう話と、うちのこの規模でその選手を。いいですよ。じゃあ幾らもらってるか知らないですけど、ちょっとお前じゃあ1000万で来いって言うのは自由ですけど、来ないでしょう？ それを、もうちょっとクラブも大きくなり、今野の給料も若干下がりっていう所がうまくハマる頃に、そういう事があってもいいかなとは思いますが。でもね、そう考えるといろいろいっぱいいるんですよ。いるでしょ？ いっぱい。そこは難しいとこですね。

拳手者：次にですね。社長って、今住民票って東京ですか？

野々村：いやいや、それが札幌なんですよ。(会場拍手) そんな拍手はいらないですよ。札幌、札幌です。

拳手者：いや、何で聞いたかと言うと、今度知事選があつて某男性キャスターがたぶん出るだろうと。某男性キャスターが去年までやってたラジオ放送で、コンサドーレの番組って石屋製菓さんがスポンサーでやってて、結構あの方、某キーパー推しとか、何試合か来られてたようなんですよ。知事の方でキックインに何か来た記憶あるんですけど、正直そんなにサッカー、コンサドーレについていう気はしてないんですよね。だからもし、あの方がなったら、道から借りているお金のとかもそうなんですけど更に何かもうちょっとやろうとかか、その男性の方と個人的に交流とかあるかなと思って、ちょっと聞いてみたんですけど。

野々村：ないですね。住民票の話はどこに行ったんですか？

拳手者：住民票は選挙、投票できるんですよ。

野々村：選挙、そういう事ですね。ないですね。ないけど、そういう人達のスポーツに対する考え方が変わって欲しいなとは思いますが。それはほんとに。でも、クラブの仕事している以上、政治の事についてはコメント出来ないの。なかなかそこは。はい。

拳手者：最後にお願いというか、さっき稲本選手獲得の時に、小野選手は稲本選手に、コンサドーレはとても志の高いチームだと、でもお金はないよっていうふうにくどいたって聞いているんですけども、正直、それってすごく大事というか、私はすごく感動した。実は介護施設で働いている人間なんですけど、正直給料安いですし人手も少

ないし、上の人から誰かいないかって言われるんですけど、自分の働いているところに魅力がないと誘えないと思うんです。でも、小野選手はそういう形で、うちのチームをすごく志を高いつていうふうに言ってくれてるので。社長も今回3年目で、たぶん結果が求められるシーズンじゃないかなと。

野々村：何の？

拳手者：J1昇格。

野々村：さっきまでの話、聞いてました？（会場笑）

拳手者：いや、そういう声も出てくるんじゃないかと。

野々村：出てくる事は全然悪くはないとは思いますが。それよりも皆で他にやることあるでしょって言う事が分かった上で、ある程度競争出来る所まで、僕らも含めて皆で作った上でそれで結果が出せないのは、それは何らかの事を言われてもしょうがないと思いますけど。繰り返しになりますけど、僕らまだそのスタートラインに立ってないですからね。だけど、皆で頑張っって、うちのクラブの規模からしたら本来だったら用意できないようなプラス1億円くらい使っって、それを追っかけるような仕事をしようよって言ってる中で、その結果をもし求めるっという事が、僕の今年のミッションだとしたらそれは受けません。

拳手者：その責任の取り方っって辞めるだけじゃないと思っっている。逆に今の社長の言葉聞いて、うちが今年どいう結果になるかわかんないけど、社長はまだうちの社長、いやたぶん社長だったらどこに行っってももっと活躍できると思ってるんです。もっと高い給料もらっって。

野々村：ありがとうございます。

拳手者：今シーズンがどんな結果になろうとも社長にはまだ社長をやっって欲しいので。

野々村：僕は簡単っというか、勝っか負けるかはある種現場がどのくらいうまく回るかっということですよ。ここにたくさんいい選手を揃えていい監督、指導者を置っくっという様なものがないと確率が低い訳じゃないですか。その確率を高める為、今経営をっしている訳ですよ。だからさっきも言っただけど20億くらい、要は2000年のシーズンぐらいの規模にする事が僕の仕事な訳で、少なくともそこまで行くようにどいうふうに仕事するかっという事をやろうと思ってるから。それと結果とは別物だっという事をちょっと考えた方が良くて、その辺が理解出来ないと、応援の仕方が困ると思っるんですよ。結構この2年間で思っるのは、最初にも言っただけど昇格する、しなきゃいけないくらいのチームと思って応援している人と、僕が今日話したみたいになんかちょっとちっちゃくて全然足りないけど、その中で何とか上がっって行こうよっというスタートラインにっいるっって事が分かって応援する人とは、全然、その結果に対する思っが変わっってきちゃっっていて、そこが何かこう一体感をまだ埋めてない所だと思っった。ちょっと話ずれるかもしれないけど、ジャイアントキリングっって今年言っ続けているのは、自分達のクラブの現状は、手前味噌だけだっけどちょっとずつは良くなっってるけどまだまだ足りないだっという事を分かった上で応援するっという事を楽しむっって事をっしていかないと、6位に入れなかつたらもうまったく駄目だろうみたいな感じになるのは、ちょっと違うかなとは思っう。僕は辞めろっって言われるまで辞めませんから大丈夫です。

拳手者：分かりました。ありがとうございます。

野々村：ありがとうございます。

司会：はい、ありがとうございます。その他にご質問ございせんか。はい、拳手された方、お名前を名乗っってからお願いします。

拳手者：オザキといいます。宜しくお願いします。関東サポの方も聞いておられると思うんですけども、先程CVSのご案内させて頂いたんですけども羽田空港から1時間半、そっから更に1時間、2時間半で札幌ドーム着きま

すんで、関東なら十分通勤圏かなと思いますので、是非宜しくお話ししたいなというふうに思っております。

野々村：今、関東の人にアピールしたの？

拳手者：今・・・。質問なんですけども2点程。まず若手選手の事なんですけども、先程社長、小野や稲本も入った中で乗り越えて行かなきゃどうしようもないって。僕もその通りだと思うんですけどもコミュニケーションの問題ですね。ブログで目にした事なんですけども、例えば都倉選手があまり若い奴が絡んでくれないみたいな事を言ってたっていう話が流れてたり。砂川のようなベテランがいて小野や稲本のような誰も知っている選手がいて若手がいてって感じで、その選手同士のコミュニケーションって上手くいってるって、社長率直にお思いかっていうのをお聞きしたいと思います。

野々村：上手く行ってるか行っていないか、行ってなくはないんじゃないですかね。30何人いるんで、どのチームもそうですけど、皆が仲良しって事はまずあり得ない。若い選手が上の人達に気を遣い過ぎてるかもしれないみたいな事かな？今聞いてみたい事は、それは気遣って当たり前だけど、気遣ったままで選手が伸びないんであれば、僕の感覚ではそういう奴は終わってけって感じですよ。荒野みたいに、バカみたいにコミュニケーションを取るような奴は生き残ってける。勿論ベテランは、それなりに気を遣って若い選手に話し掛けたりって事は普通に思いますよ。でもそれ待って自分のパフォーマンスが上がっていかないのは、それも能力なので、そんなに気を遣う必要は僕はないと思います。むしろ悩んでいる若い選手、当然いるので、そこはコーチとかがまずはフォローはするんだけど人間なので、教えても上手くならねえなっていう所で多少見放すじゃないけど、あきらめる様な時ってやっぱあるんですよ。その時にはピッチにいないうちのスタッフとか、僕も含めてちょっとフォローはするっていう様な感じで考えてはいます。若いのはあんま甘やかさない、それが基本です。

拳手者：分かりました。ちょっと伺ってみたかった。例えばブログの事もそうなんですけども、去年ユースがプレミアリーグは何とかセーフって事だったんですけど、残念ながらそっちの方まで試合観る時間なかなか取れなかったんですけども、聞く話によると試合中もあんまり声出てないみたいな。その辺でチーム全体としてあんまり上手くない人が多いのかなっていうのが、ちょっと気になったので聞いてみたんですよ。

野々村：どうだろうね。コミュニケーション能力は足りない、若い選手。それもあるかもしれないですね。もう教えていくしかないでしょう。例えば高校生でそれが出来る奴なんてそんな多くはないので、教えていくしかないかな。元々持ってる資質もありますけどね。うちのチームが最終的に強くなるって事もそうだけど、本人が将来生きて行く上でもいろんな事を教えてあげないといけないとは感じます。はい。

拳手者：教えてるって事なんです。

野々村：まあ、教えるっていうか感覚でやっていくしかない。若い選手と話せばそういう事はありますけど、特別にじゃあ講義しますってやるような事ではなかったりしますからね。その辺は上手に。そういう事も出来る人がピッチの上にいる方がグループは良くなるし、若い選手も良くなるんで、ベテランたくさん置いたり、コーチ達にはそういう所のケアもする様になってっていう話は強化サイドとかからも僕からもしています。

拳手者：分かりました。引き続きお話ししたいと思います。ここまで一回もこの話が出なかったのでお話しさせて頂きたいんですけど、Jリーグが2ステージ制になるじゃないですか。Jリーグにお金が集まるように、率直に言うとなんかそういう事なのかなって思ったりするんですけども、社長どう思ってるのかなって。

野々村：たぶんね、始まりはJリーグがもっと。簡単に言うともっと潤わなきゃいけない訳よね。さっきの話じゃないけど、プレミアリーグとJリーグの差は圧倒的な訳で、じゃあ20年前そんな差があったかっていうと全然なかったんですよ。なんでJリーグが潤わなくなっちゃったかみたいな事を考えた時に、やっぱり資金が必要だろうと考えたんじゃないですかね。どっちが先かは難しいんですけど、2ステージ制にして盛り上がりを分かりやすく見せようとしてるじゃないですか。どんな理屈かと言うとファーストステージ、セカンドステージがあれば、開幕で盛り上がる。なんで盛り上がりが必要かと言うと、さっき僕が話したのと同じで、いかに多くの人に情報として届けられるか、要はメディアがどれだけ扱うかっていう事が必要だっていう理屈だと思うんですよ。メディア

が扱えば、新しい人が来るっていう循環をどう作るか。ファーストステージで盛り上がって、セカンドステージで盛り上がって、最後でまた盛り上がってみたいな物があると、そこにスポンサーしてくれる企業が出てくる。Jリーグの話だと10億円ぐらいのお金が年間増えるっていう。その10億円を新たな投資に使ってもう一回Jリーグ自体を盛り上げようみたいな理屈だと思うんですね。すごく利にかなってるし、全然悪くないと思ってます。それと1シーズン制で、ヨーロッパのトップリーグのスタンダードでやる事が良いか悪いかという話はまた別で。リーグをもっと価値のある物と外に見せる為に、10億稼ぐ為にそういう事をやるのがいいのかどうかには、ちょっと疑問があるというか。どうせJリーグがやるんだったら100億稼ぐ為にどうするかみたいな発想で何かをやってくれた方が面白いかなとは個人的には思うんですけど、2ステージ制に関してはもうしょうがないかな、悪くはないかなって思ってます。やってた感覚でも選手はそんなに意識はないと思う、シーズン制じゃないと嫌だっていう事は全然ないと思う。

司会：はい。宜しいですか？ では他にございませんか？ はい、こちらの一番通路側にお座りの方、お名前を名乗ってからお願いします。

挙手者：こんにちは、タケウチと言います。札幌ドームの使用料についてお伺いしたいと。かなりきついついていう事で、コンサドーレの運営が一番ネックになっているという事を、今年のサポ集でも社長、おっしゃってたんですけども、何とか安く出来る方法はないんでしょうかね。例えば僕らが署名するとか。条例で決まってるって話を聞いたんで、条例であればたくさんさんの署名があれば議員さんが考えてもらえるとか。例えば某野球球団とあまりしたくないですけどコラボして署名するとか、僕らに出来る事。きっと社長もアプローチされてると思うんですけど、サポーターとして。きっと何億か違うんじゃないかなって気するんで、出来る事ないかなっていうのをお伺いしたいんですけど。

野々村：何億か違うんですよ、ほんとに。2億9千万ぐらい掛かります。まあドームの使用料だけじゃないですけどね。そんでもう、何かして頂けると力強いとか心強いというか、有難いとは思いますが。どうやったら変わるかって言うお願いはもう散々してますよ。さっきプロ野球の球団とコラボして話し出しましたけども、そこを考えている以上、たぶん変わらないと思うんですよ。企業広告としてやっているものからお金をドームが取る事と、市民クラブとして皆で作っていくスポーツのやり方をしている僕らと一緒に考えちゃダメだと思うんですよ。スポーツをどうやったら育てられてスポーツが何よっていう、その会社の福利厚生でやっている企業スポーツとは違うよねっていう事が行政の人達が分からないと、たぶんこの問題は解決しないんじゃないかと。商売としてショーとして見せるアーティスト、そういう団体にはこれだけ取るけれども、地域のスポーツを作ってる市民クラブからはこれだけしか取らないっていうような理屈で考えないと、そもそもダメなんじゃないかなとは思ってるんで署名活動、もしして頂けるなら頂いて全然有難いんですけど。それを受け取った人に全然マインドがないんで、それで変わるかなっていう所があるんですよ。難しい所ですけど、まあでも言い続けて下さい、それは。どっかで届くと思いますから。はい。

挙手者：ありがとうございます。札幌市民、企業何かやる時とか、本州の大きなイベントをやる時とか、そういう差を付けられるような仕組みとか、そういうところで修繕費とか、かなり掛かってるっていうのが事実だろうし、市民の税がそこに入るって事で問題な事もありますから、一概に安くすれ安くすれって済む事じゃないと思うんです。ただ地域の振興発展の為にどうすればいいかって観点で何か出来る事があれば、社長言ってくれれば僕らやります。

野々村：いやもうその考え方を、まず皆さんにその感覚を理解してもらって、それをまだ理解ない人に伝えてもらうっていうような事が一番早いつて絶対必要だなって思ってます。お願いします。

挙手者：ありがとうございました。

司会：はい、ありがとうございます。では他のご質問。はい、その隣の方、お願いします。

挙手者：ヨコタと申します。宜しく申し上げます。選手の事で2点程お伺いしたいのですが、川崎から期限付きで加入した福森選手なんですけども経緯の獲得、今までどれぐらいの頻度でどのような形でスカウティングして来て、

それでチームのどの様な強化ポイントと合致して獲得を決めたのかっていうのを教えて頂ければと思います。

野々村：福森くんは、強化担当は当然高校生の時から見てるのでいい選手だっていう事は分かっていると。まあ何でうちに来たかは何とも言えないですけど、川崎でプレーする機会がきっと多くないという事を川崎サイドが想定していたから話があって、何チームかたぶん。大体そういう時は川崎としてもまだ選手を育てたい訳なので、川崎みたいないいサッカーをするような所に話をたぶんしたんだと思いますよ。3バックでやるにせよ4バックでやるにせよ、左利きのセンターバックはサイドバックも含めて必要な訳で、買い取るまでお金がないのでレンタル、うちの補強ポイントはそれですよ。川崎はあのチームとあのチームどうって話の中で、うち取りますよっていうチームがたぶん何チームかあって、最終的には福森がどこに行ったらいいイメージが湧くかって所で札幌を選んだっていう事が、たぶん事実関係だと思います。

拳手者：ありがとうございます。もう1点パウロン選手に関しまして、今期の正式な契約形態に関してまだリリース出てないと思うんですけども。今期もまだ期限付きという事で考えて宜しいですか？

野々村：結局ね、期限付きっていう名の難しい所なんです。昔で言うと。昔で言うって言っても皆さんよく分からないよね。共同保有みたいなのでサッカーにはあったりするんですよ。どういう事かと言うと、移籍した時に1億円で売れました。そうしたら例えばブラジルのチームが7千万円貰います、コンサドーレが3千万円貰いますみたいな契約形態で、外国人は今上手く揃ってるニウドに関してもナザリトに関しても完全移籍なのか期限付移籍なのかよくわかんない感じで伝わってると思いますけど現状そういう形態で、パウロンもリリースはちょっとよくわかんないけど、そんなような契約形態になっていると思います。で、売れば入るってそういう感じですよ。

拳手者：分かりました。ありがとうございます。

司会：はい、ありがとうございます。他にご質問ありませんか？ はい、端の方、お名前を名乗ってからご発言をお願い致します。

拳手者：シミズと申します。練習相手、道内だと教育大なり札大なり、一般であると前の北電の所だったりしますが、全国を知ってるチームが道内にはいない。その為にはセカンドチーム、岡山のようなセカンドチームを作って、言うなれば全国チームを出す、作るって考えはありますでしょうか？

野々村：考え方としてはなくはないですけど、どれだけ費用掛かってっていう事を考えると、それも現実的ではなかなかないですね、今は。それよりもどこかの地域にJリーグのクラブが北海道の中にも出来たらいいのになとは思ったりもしますが、それもあんまり現実的ではないので。セカンドチーム持つって言っても遠征費だけでもたぶんリーグ戦に参加するんで、何千万円って掛かったりしますからね。現状はちょっと難しいと思います。セカンドチーム持ってるようなものですけどね、今。いっぱいいますから。はい、そんな感じです。

拳手者：ありがとうございました。

司会：はい、ありがとうございます。他にございせんか？ はい、どうぞ。

拳手者：榊翔太を応援する会のタチバナと申します。宜しくお願い致します。

野々村：翔太の話出て来なかったですもんね。

拳手者：先程クラブ向上委員会の方で人手が足りないって話がありました。それからCVSの方のいろんな案内もありました。CVS方は当日ゲームを背にしてお仕事をやるって事なんですけど、私達の集まりはオーバー45でちょっと年齢が高いメンバーの集まりなんですけど、中には仕事をリタイヤした方もいらっしゃるし、当日応援は出来ないが、普通の日だったら空いてるのでちょっとお手伝いしたいなって、それぞれいらっしゃるんですよ。人が関わるって事はお金が掛かる事なんで、その点で何かご協力出来るような仕組みとかポジションとか、そういうのがあったらお聞きかせ願いたいというか。

野々村：そうですね。CVSさんみたいな方々はほんとに有難いんですよ。じゃあ平日、リタイヤした人にホームページの管理をしてもらうかどうかという所は責任の問題もあったりするのでなかなか難しいんですけど、そう言われると具体的にどうってというのは、なかなかこうして欲しいという物は言えなかったりするんですけど。僕はもうとにかくコンサドーレの事を広めてくれるだけでいいかなっていうふうには常に思ってます。1人が1人を連れてくればみたいな話をよくあったりするじゃないですか。ほんとにそれをやってって言って、やってくれるのかなってというのはあったりするんですよ。何でもいいんでコンサドーレの事を伝えてくれるだけで、僕は十分かなとは思いますが。後は何ですかね。どんなのが逆にやってみたいとか、やったらいいんじゃないかとかありますか？

挙手者：先程ホームページのお話ありましたが、私は出来ないんですが出来る方もいらっしゃると思いますし、現役でそういう仕事に携わってる方もいらっしゃると思いますので、集えば出てくるのかなと。

野々村：まあ、そうですね。そこに費用が発生しない形で責任をどうするかみたいな所が難しいですけど、検討させて頂いていいのとかどうかちょっとわかんないですけど。そういう気持ちの人がどれだけ増えるかがすごく大事なので、そんなお仲間をたくさん増やして頂くような活動をして頂ければ、僕はそれで十分かなと。こちらからもしお願いする事があればまた何らかの形でお願いはしたいと思いますが、とにかく広めて下さい。

挙手者：分かりました。CVSの方達にちょっと頑張ってもらって、そういう場所を作って頂きたいと思います。

野々村：はい、ありがとうございます。

挙手者：集客の話があっただんですが、私シーズンチケットを持っているんですけども、B席なんですけど他のお客様を案内する時に、見やすい事も考えてSS席とかS席、中央に近いところをご案内するんですが、シーズンチケット買ってるのにその分持ち出しして隣に座らなきゃならないっていうのが出てくるんですよ。ですから出来ましたら、2000円引いてくれとは言わないんですけど、ある程度の援助して頂く割引制度があってもいいのかなと、であれば年間何名も連れてって案内してるんですが、その分経済的にも少し負担がという所がありますので、ご検討の程を宜しくお願い致します。

野々村：はい、了解しました。たぶん、スタッフもしっかり聞いてると思いますので。

挙手者：榊翔太の会からあと何点か来てるので。帰りにお渡ししていきますので宜しくお願いします。もし時間が余れば、また宜しくお願いします。

野々村：はい、あれですか？ 翔太を出せ使えとか、そういうのは無理ですよ。

挙手者：それは本人の力ですので、はい。ありがとうございます。

司会：はい、ありがとうございます。他にご質問ございませんか？ はい、真ん中にお座りの女性の方。

挙手者：タカハシと申します。宜しくお願いします。単刀直入にお聞きしたいんですけども、稲本選手の奥さんが田中美穂さんって、私あまり知らないんですけども有名なモデルさんみたいで、札幌に住んで仕事もするのかどうかわかんないんですが、地元テレビのCMとか新聞とか稲本選手とセットで出た時にコンサドーレにお金が入らない形でも、セットで出てコンサを広めてっていう事で、そういうのって有りなんですかね？

野々村：全然、有りじゃないっすか。そこは全く問題ないっていうか、そういう事にはなればいいですけどね。

挙手者：そういうのがあれば、結構どんどん出ていいよっていう、そんな。

野々村：そりゃあ全然、どんどん出なさい！って思ってます。イナはやるっていうかもしれないけど、奥さんの

方がローカルでどう、それはまた向こうの事務所の話なので。

拳手者：ちょっと、札幌で何か仕事があったいなみたいな話を聞いた事があったので。

野々村：分かんないっす、それは。

拳手者：ありがとうございます。

野々村：はい、何かいいんじゃないですか。こっち来るっていうんだから大したもんですよ。

司会：はい、ありがとうございます。他ございませんか？ それでは、なければ。あっ、いいですか？

拳手者：関東地区後援会からの質問で抜けてたんですけども、スカパーの中継のレポーターなんですけど、他のチームはかわいい女の子の（会場笑）レポーターを使っているんですが、コンサドーレ札幌のホームゲームは、STVの男性アナウンサーで花がないと言った声が、遠方で見ている関東サポの方から出ているようで、そこら辺をHFCの方からプッシュして、女性を使って頂けないかという事はできないんでしょうか？以上です。

野々村：プッシュする事は出来るんじゃないっすか。プッシュする事は全然出来ますよ。出来ますけど制作費の問題でしょう、きっと。局アナはただで使えるけど、タレントを使うと何万円か掛かる訳で、そういう理屈ですよ。あと、制作サイドの意見としてどうかわかんないですけど、サッカーのハーフ、ピッチレポーターがかわいらしい若い女性でいいのかというような、そういう考えで作っているサッカーを制作している所もあるから、そこはSTVに聞かないとわかんないっすけど。僕らとしては正直どっちでもっていう気がしますけども、プッシュしますか？一応言っておきますか？言っときますよ、一応。ほらね、今度前の方じゃイケメンがいいって言い始めますからね。（会場笑）そんな感じになるんですよ。それ言っときますわ。じゃあ。

司会：はい、ありがとうございます。じゃあどうぞ。はい。

拳手者：すいません。座ったままで失礼します。ゆるい質問なんですけど、ウメハラと申します。金沢の試合会場がまだ未定のままなんですけども、何か情報入ってませんか？

野々村：未定な事すら僕知らないっす。金沢ではやらないんじゃないですかね。金沢だけど金沢じゃないみたいな事を誰かに聞いたような気がする。だから申し訳ないっす。金沢に言って下さい、どこでやるんだって。

拳手者：ありがとうございました。

司会：ありがとうございます。あとは、ございませんか？ 社長、どうぞ。

野々村：2回目、翔太を使えとは言わないっすよ。

拳手者：一昨年前まで、サポーターが会場に入る時に選手が入口で出迎えてくれてたのがすごい印象があって、私の友達、北見とか釧路からも来るんですけど、それをすごく楽しみにしてたんですけど、先シーズンぐらいからなくなってしまったっていうか、数が減ったっていうか、その辺何か問題があったのかという事と、今後出来るだけやって頂きたいっていう要望なんですけど。

野々村：それは決めの問題ですよ。一昨年は意識的に運営とか設営まで選手にCVSさんのやっている事とかを理解してもらう為に、敢えて試合に出ない選手を出したり体験をさせたりしてたんで、その流れでお出迎えとか出来たと思うんですけど、おそらく去年はゲームに関係ない選手は当然トレーニングがあるんで、だからそこに人がいなかったっていう。現場でその仕事をさせるのがトレーニングだと決めるかどうかの問題で、じゃあどっちがいいのかっていう所ですよ。回数は少なくなっても同じような裏側でどういう人達がどう支えてくれるかみたいな事は、選手にはしっかりと見せる事は、続けていきたいなと思いますけど。だから若干回数が減ったんだと思

ます。

拳手者：ありがとうございます。

司会：はい、宜しいですか？ え〜と、社長何か目新しいお話ございませんでしょうか？

野々村：20年目なんですよ。今日ずっと話をしてきましたけど、とにかく仲間をどうやって増やすか、興味を持ってもらう為に上手くメディアと連動して。道内のすごく遠くのエリアの人達まで届けられるっていう事じゃないですか。500万人いる人にもう一回北海道のチームだよっていう事を見せたいと思っていて、今年20年目だけど20周年っていうのは来年のシーズンになるんですよ。それを目掛けて、クラブの名前を変えようと思っております。北海道っていうのを付けようと思っていて「北海道コンサドーレ札幌」に変えるつもりで今、動いています。コンサドーレ札幌は変わらないんだけど、北海道のチームだよっていう事をもう一回多くの人に。札幌の人は北海道のチームだと思っているけれども、その他の地域の人達って、何だ札幌かよみたいな感じの人達って、案外地方を回った感覚でも多くて、うちのクラブの市場っていうのは札幌だけじゃなくて北海道なので、そのエリア500万人の人をターゲットにしてもっと大きくなって行く為のスピードをあげるには、名前を変えるって言うんじゃないな、プラスするみたいな。「北海道コンサドーレ札幌」っていう名前に来年のシーズンから変えます。Jリーグのルールがあって13ヶ月前ぐらいに理事会を通さないといけない。たぶん2月中ぐらいにあるので、そこで通る事になって、正式名称は変わる。まあ今までと変わらない部分もあるし、もっと広いエリアの北海道代表って事が、何となくこうメッセージとして伝わるような格好になればいいなどは思っています。それが来年の話ですけどね。多くの人もう一回仲間になって貰う為には、分かりやすい発信の仕方であるかなという事で、そんな動きをしています。

司会：ありがとうございます。今の事も含めてご質問は他にありませんでしょうか？ 急にシーンとしちゃいました？ 賛否いろいろあるとは思いますが、はいどうぞ。ミヤモトさんどうぞ。

拳手者：ミヤモトと申します。今日はありがとうございます。札幌に勤務してるんですけども稚内住んでた事がありまして、稚内に住んでる時から札幌に試合観に来たりしてたんですけども距離の問題もあるし。JRだと6時間、時間の問題もあって。新聞やテレビの発信は当然稚内でも見たり聞いたり出来るんですけど、やっぱりちょっと札幌と距離があるなというのが、地方都市に住んでてすごく感じた所があって。名前の変更もそうだと思いますし、地元のサッカー協会も例えば1年に1回、札幌にツアー組んだりとかいろいろ頑張っている事がある。社長もおっしゃられた通り地方の情報発信とかサッカー教室とか、時間とお金いろいろ制約とかあるんだと思うんですけど、その気持ち引き続きやって欲しいと。ありがとうございます。

野々村：ありがとうございます。でもね、1年掛けて来年からになるんで。それだけやって道内の各市町村を回る様なミッションを1人のスタッフに与えて、今おっしゃった様にいろんな所でコンサドーレの事を、一緒にこういう事が出来ますっていう様な事を実現させていく作業をやるよと思っているので、上手く行きたいなって僕がほんとに思っている事なんです。今まで札幌だけでって事もないけれども、コンサドーレ札幌としてやって、この200万人近い人達をターゲットにやって、その中でも全然取りきれ得てない所は引き続きやってかなきゃいけないんだけど、北海道に1個しかなくて。今日の話の中でも出しましたが、コンサドーレは北海道を何かにアピールするとか、例えば東南アジアに北海道の事を伝えるっていう様な事が唯一出来るスポーツ団体だっていう様な、そんな価値を道全体で色んな人に分かってもらっている事が、今日の話の中で14億しかない物を20億30億にしていく可能性を広げる事だと思ってる。多少名前が変わったとして違和感は最初あったとしても、本来コンサドーレが北海道全体を担って行くという事を分かりやすく伝える為の変更だっていう事をご理解を頂きたい。いろんな講演で言うんですけど北海道どういってここに価値があるかっていう事をいろんな人にもし分かてもらえたとするなら、それは勝つ負けるって事もひとつの価値だけでも、あのクラブがある事で多少なりとも人生が豊かになって幸せと思える瞬間があるよねっていう人達が、札幌のこの辺にいる人達200万人全員にひとり年間1000円払ってもいいなって思ってもらえる、たった1000円払ってもいいなって思ってもらえる価値を見出せたとしたら、今の20億になる訳ですよ。そうすると国内で勝てるんですよ。今度はそのマーケット、北海道全体の500万人の人にその価値を分かてもらえるとすれば50億円になる。ひとり1000円でアジアで勝てるんですよ。夢みたいな話だけど、僕はサッカークラブコンサドーレにはその価値は必ずあると思う

ので、もうここはメッセージとして北海道を代表して戦っていく、運営していく物だっという事を多くの人に分かってもらえたらと考えてますんで、そんな日がいつか来るでしょうと思ってます。

司会：はい、ありがとうございます。他、ご質問なければ終わりにしましょうか。

野々村：終わりにしますか。ほんと、いつもありがとうございます。

司会：私も最後に社長からお話聞いてちょっとびっくりしたんですけども、私もそれこそ室蘭に住んだり小樽に住んだり、美唄や稚内やいろんな所に住んだ経験がありますけども、やっぱりその時の友達に聞くと、帯広にも友人がいますけどもコンサドーレ札幌って札幌のチームだろうと、帯広のチームじゃないよねと、釧路のチームじゃないよね」という意識を持たれてる方がいるので、やっぱりオール北海道のチームだという意味ではいいのかなと、そういう名称変更もひとつ有りかなというふうに今聞いてました。そういう意味で北海道の540万皆がひとつのチームを応援出来て、そこから情報発信出来ればいいのかなと。今までその問題に関して手を付けた社長はいっらっしやらなかったの、ようやくそういう発想になったのかなというふうには感じました。賛否両論いろいろあるとは思いますが、私はそのお考えを支持させて頂きたいと思えます。え〜と、それではいつもの恒例で締めますか？ ヨーデルさん、宜しくお願いします。それではコンサドーレコールで、いやいやいや（会場笑）もうやるの前提で来てません

突然お願いしたんだけど、やるの前提になってませんか？もしかして。

山本さん：ちょっと社長のエピソードをひとつやらしてもらってもいいですか？ 私、札幌市役所に勤めておまして、昔は市役所の職員と家族の仲間集まって100人ぐらいでキックオフパーティーっていうのやりました。それで毎回トークショーに大体その年現役を引退した方に来て頂いて、私とステージの上でトークショーをやると。野々村さんが引退になった時、トークショーをやるという事で控室に入りました。戦力外になったばかりで非常に元気がなく、何やるんっすか？、トークショーっすか〜。この人とステージに上がって私しゃべれるんだろかな〜って思って、100人の前の扉がバツと開きました。野々村さん、ど〜も〜！ プロ精神の塊りだな〜と。ほんとに野々村社長の下、一丸となって北海道コンサドーレの昇格を目指したいと思えます。それではコンサドーレコールいきますか。

司会：お願いします。コンサドーレコール3回です。宜しくお願いします。

山本さん：せ〜の、コンサドーレ！ コンサドーレ！ コンサドーレ！ ありがとうございます。頑張りましょう。（会場拍手）

司会：どうもありがとうございました。お帰りは滑りますので、気を付けて。車の運転、安全運転でお願いします。今日はわざわざ、お運び頂きましてありがとうございます。（会場拍手）

— 16:15 時終了 —